

経済成長期のベトナムにおける地元企業の環境安全保健マネジメントのグッドプラクティスアプローチ
The good practice approach on occupational environment, safety and health improvement at local enterprises in Viet Nam in the growing economic stage

仲尾豊樹 / なかお とよき / Nakao Toyoki

NPO法人 東京労働安全衛生センター / Tokyo Occupational Safety and Health Center, Tokyo, Japan

目的: ベトナム社会主義共和国南部にあるカント省カント市は近年ベトナム第5番目の指定都市となり、経済発展が著しい。多くの現地企業が海外品質規準に基づいた輸出商品の生産を行なうようになり、同時に環境保護についての関心も高まっている。カント省衛生局の付属機関であるカント省労働衛生環境センター (Center for Occupational Health and Environment CanTho 以下 ECHO と略) は、90年代半ばから WISE^{*1}方式の参加型安全衛生活動をこれらの企業に進め、2001年からはILO労働衛生マネジメントシステムを導入してきた。この成果の上に立って ECHO と当センターは、WISE トレーニングを「環境保護」の視点から再構成した WIPE (Work Improvement for Protection of Environment) プログラムを開発・実施したので報告する。

対象と方法: 2005年1月に中小企業5社で、すでに実施されている環境改善のグッドプラクティス(良好事例)を収集した。6月~7月にこれら良好事例をイラストと写真で説明した70項目アクションチェックリストと、7技術分野から構成されるトレーニングマニュアル(TM)を作成した。8月と10月に地元9社の中小企業労使に対して WIPE トレーニングを、11月に TOT (Training of Trainers) コースを実施し、12月には日越合同で改善事例の収集とワークショップを行ない、本プログラムを評価した。

結果: WIPE トレーニングを受けた労働者は8月~11月で9工場53名であった。彼らは工場内の職場改善トレーナーとして活動しており、各人が10名の労働者に対して短時間トレーニングを実施していた。TMは9工場に配布され、500名の労働者にはイラストと改善事例付のアクションチェックリストが渡され、各項目の改善活動成果をアクションチェックリストに3回まで記入出来るようになった。また改善事例収集シートが作られ、実施した改善はECHOに集約さ

れた。最も多かった改善は「窓や照明施設を清掃して電気エネルギーを節約する」で、環境問題で最も多かった改善は「有害な廃棄物を収集するためにマークや表示付のコンテナを使う」であった(表1)。

結論: 1)カント市中小企業労使の環境保護への関心は非常に高く、カント市全域へトレーニングを拡大する基礎が出来た。2)現地企業では、すでに現地の経験に基づいた環境保護活動が行われており、すでにある良好実践例を伸ばす立場で関わるのが大切であることがわかった。3)そのツールとして WISE 方式と ILO-OSH2001(労働衛生マネジメント指針)をベースにした環境保護トレーニング=WIPEの有効性が確認出来た。進出企業や現地と提携する企業は、品質管理と環境保護との結合、自社の環境基準と現地のグッドプラクティスとの結合、企業人材育成と安全衛生問題・環境保護リーダーの育成との結合に関心を払うことで、現地の安全衛生と環境保護に寄与できる、と考えられる。

*1 WISE方式: Work Improvement in Small Enterprises の略で ILO が開発した、中小企業のための参加型安全衛生トレーニングプログラム。全世界の開発途上国で大きな成果を上げている。

表1 WIPE 改善活動結果

⑨企業,カント省,ベトナム,2005年11-12月)

技術分野	改善数
物の保管と移動	118
作業台	70
機械安全	23
作業場環境	172
環境保護	18
福利厚生	3
作業編成	4

* 本プログラムは、2004年度トヨタ環境活動助成プログラムの助成を受けました。